

「アメリカ情報コーナー」で始める・続ける 英語多読 おすすめの15冊&More!

選者：高良則子（沖縄県立芸術大学全学教育センター教授、英語学／英語教育）

県立芸大の
先生が選ぶ
おすすめ本！



佐藤まりあ

『大人のための英語多読入門』

酒井邦秀監修 コスモピア社、2008

/830.7/SA85/

4階の多文化エリアにある「アメリカ情報コーナー」は、アメリカに関する図書のほかに英語学習のための「多読図書」が充実しています。英語多読は、辞書を引かずに読むことができるやさしい本から始めます。大量に英語の図書を読んで、英語のインプットを増やすことで英語力を身につける学習方法です。英語の難易度は少しずつ上げていきますが、「和訳せずに英語のまま理解できる」という感覚を常に意識していきます。

第1冊目に挙げたこの本は、多読による英語学習の進め方や図書の活用法、そしてレベルごとの推薦本をわかりやすく説明しているガイドブックです。大人はもちろん、英語学習を始めたばかりの子供達と一緒に英語多読をしてみたいかと思いますが、英語嫌いが克服できるはずです！

Oxford Reading Tree

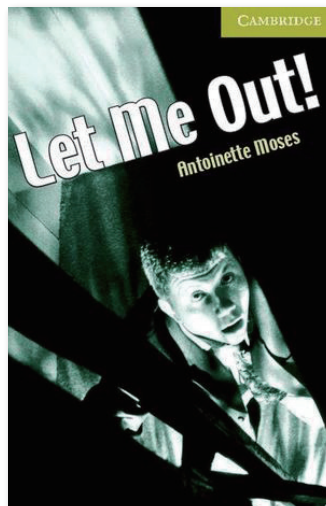
Stage 1 - Stage 9 by Roderick Hunt & Alex Brychta

Oxford University Press, 2011

J/E/O/1-1-1~J/E/O/9-2-6



多読入門用に広く活用されているのが、絵本やネイティブの児童向けの読本ですが、その中でも非常に人気が高いのが、ORTと省略されるこのシリーズです。イラストの多い図書を読むことによって、イメージの助けを借りつつ英語の文をそのまま左から右へと和訳せずに理解する習慣を身につけることが可能になります。ペーパーバックの長文を本当に楽しむためには、文の前後を行き来しながら和訳して理解する習慣から脱却しなければなりません。ですから、英文和訳に慣れている人こそ、このような多読図書で英語を英語のまま理解する感覚を身につけてほしいものです。英語が苦手な方はStage1から、また実力に合わせて Stage 3あるいは Stage 5からスタートすると良いでしょう。



Let Me Out!

by Antoinette Moses

Cambridge University Press, 2006

JG/837/C14/

ORTのようなネイティブ向けの読本ではなく、外国語としての英語学習者用に書かれたレベル別読本から大人の方にお勧めの一冊です。この本は *Cambridge English Readers (CER)* シリーズの Starter ですが、このシリーズのために書き下ろされたストーリーは、オリジナル性が高く、意表を突く展開あり、どこかダークな一面ありと読者を魅了するタイトルが多いです。この本は2006年に出版されていますが、AIが日常的に話題になる今日ならではの楽しみ方があるかもしれません。同シリーズの *Ten Long Years* や *Bad Love* も是非読んでいただきたいタイトルです。若い英語学習者向けの多読図書で人気が高いのは、*Foundation Reading Library* シリーズでしょう。CERが少し長すぎると思う方は、まずこちらに挑戦してみてください。



The Giving Tree by Shel Silverstein

Harper Collins, 1964

味わい深い絵本も多読図書としてお勧めです。アメリカの作家によるこの絵本はシンプルなドローイングにストーリーが添えられており、村上春樹による訳もあります。邦訳の『おおきな木』というタイトルにも感動を覚えました。この本のテーマ「無償の愛」は、英語のタイトルを読むと一目瞭然です。

J/E/G/

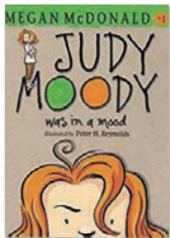


Catwings by Ursula K. Le Guin

Orchard Books, 2006

『ゲド戦記』の原作者で、優れた SF やファンタジーを数多く執筆したル・グウィン。児童書には A Catwings Tale というシリーズがあります。羽をもって生まれてきた子猫たちに、母猫は飛び立って自由になれと言います。人間を 'the Shoes' や 'the Hands' と呼ぶ飛び猫たちの冒険が始まります。

JG/933/L46/



Judy Moody by Megan McDonald

Candlewick Press, 2010

メーガン・マクドナルドの描くジュディーは、ちょっとひねくれた、でもユニークなセンスの光る子供です。少し長め(11,083語)の児童書に挑戦したい方にお勧めです。ピーター・レイノルズの添えるイラストを見て、日本でも人気のある絵本を何冊か思い出す方もいるかもしれません。

JG/933/Ma14/1

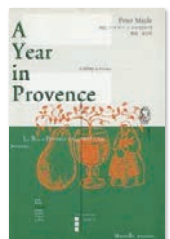


Love That Dog by Sharon Creech

HarperCollins, 2001

4000語程度の「小説」ですが、多読に慣れた方にお勧めの一冊です。詩なんて書けないという子供が近くにいません。詩との出会いでジャックが徐々に変化し成長する様子に胸が打たれますが、ストレッチベリー先生のような教師との出会いはこの上なく貴重だと改めて感じます。

JG/931/C92/

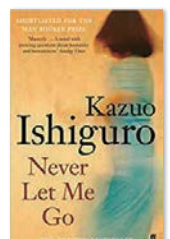


A Year in Provence by Peter Mayle

講談社、1995 (本文は英語。日本語による解説付き)

アメリカ情報コーナーを離れて、外国語コーナーへ。中級から上級者向けにお勧めの英国紀行文学賞受賞のエッセイです。プロヴァンスに暮らすことになった英国人が軽妙な文章で綴る南仏の日常風景は、心地の良い異文化体験であふれています。どの季節を切り取ってもプロヴァンスの空気まで伝わってくるかのようです。

G/934/MA98/

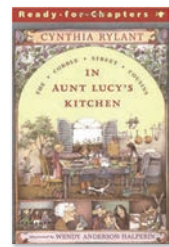


Never Let Me Go by Kazuo Ishiguro

Farber and Farber Limited, 2005

2017年にノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの小説です。外国語コーナーには、An Artist of the Floating World, A Pale View of Hills, The Remains of the Day といった初期の作品もありますが、多読上級者にまずお勧めしたいのが、キャシーの回想によって綴られるこの静かな、でも衝撃的な小説です。

G/933.7/I73/



In Aunt Lucy's Kitchen by Cynthia Rylant

Aladdin, 2000

アメリカ情報コーナーには、優れた児童書が多読用図書として語数やレベルが明記されて配架されています。ある程度多読に慣れてきたら、シンシア・ライラントが描く3人の少女たちの物語を読んで児童書の世界をのぞいてみましょう。少女たちのほのぼのとした会話やイラストを楽しみながら。

JG/933/R94/1



Andy Warhol in Getting to Know the World's Greatest Artists by Mike Venezia

Childrens Press, 1996

Getting to Know the World's Greatest Artists シリーズでは、作家ヴェネツィア氏がウィットに富む文章で様々な画家の人生を紹介してくれます。くすっと笑いを誘う風刺的イラストと随所に散りばめられたウォーホルの作品や写真を楽しみながら解説を読んでみましょう。

JG/837/V57/



Murder on the Orient Express by Agatha Christie, retold by Fiona Bedall

Person Education Limited, 2009

アガサ・クリスティーの『オリエンタル急行殺人事件』は、名探偵ホワロが登場する有名な推理小説ですが、オリジナルのペーパーバック版は6万語近くもあります。そこで、中級レベルの推理小説ファンには、ペンギンリーダーシリーズのレベル4、18,985語の多読図書をお勧めします。

JG/837/P37/

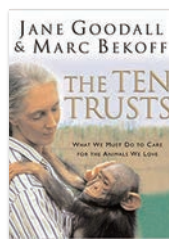


Parenting Beyond Pink & Blue by Christia Spears Brown

Ten Speed Press, 2014

多読図書ではありませんが、アメリカ情報コーナーから中級～上級レベル向けの一冊。発達心理学の研究者が子育てをする中で書き下ろした本です。ネイティブ向けの実用書ですが、チャプター内に見出しも多く読みやすいです。ジェンダーの箱を超えて、個性に目を向ける子育てに関心のある方へ。

G/599/B77/



The Ten Trusts: by Jane Goodall & Marc Bekoff

Harper San Francisco, 2002

霊長類の研究で著名なジェーン・グドールと動物行動学者のマーク・ベコフが提言する地球とそこに住むすべての生物が共存するための10か条。でも上から目線ではない。環境・生態系保護について、1つのアクションが1つの変化を生み、現状が変わっていく体験を紹介しつつ、温かいまなざしで我々に未来への希望を語ってくれます。

G/480.9/G55/



高瀬敦子 『英語多読・多聴指導マニュアル』

大修館書店、2010

英語多読の指導者向けの最良の手引書。多読・多聴の目的、歴史、方法、効果が体系的にまとめられています。理論的・実践的研究による知見が共有されているだけでなく、多読図書の紹介や多読の導入方法など、すぐに役に立つ具体的情報が盛りだくさんです。

/375.893/TA53/